

皇國と大麻

唐突に聞こえるかもしれないが、天皇と麻は切っても切れない関係にある。皇室祭祀で最も重要な儀式である、天皇即位時に行う大嘗祭では、平成元年に四国でわざわざ1年だけ大麻を育て、儀式の服である鹿妙を捧げた。鹿妙とは天皇が着用する神事用の衣服で、代々四国の木屋平で忌部氏が大麻を栽培し、鹿妙に加工して朝廷に献上している。

(写真下)

鹿服を織り麻糸をつくる大麻の刈り取り式。
葉っぱ一枚も落せないで、村人も緊張ぎみ



皇室だけでなく、大麻は神道に欠かせない存在である。

大麻は元々はオオヌサといい、大麻の繊維を加工し、櫛や串などにシテを付けた祓いの道具である。

また、神社で売っている神宮大麻は紛れも無く大麻である。

祓詞を書いた麻紙に御祓いをしたものを(神宮)大麻と呼ぶようになった。

神事でお祓いの言葉を千も万も言ってそれを麻の紙に記したから大麻という。



本来の日本は麻の国であり、大麻は五穀の一つだったのである。

あまり知られてはいないが、日本が太平洋戦争に突入する前に大麻増産計画があった。

昭和15年、政府は来たるべき決戦に備え軍用の衣類やロープ等幅広い用途に使える大麻を150%増産する計画。

実際、大麻栽培量は昭和10年より10倍と大幅に激増し、容易に達成してしまったのである。

以上の様に、大麻は天皇即位の儀にも使われるほど重要な作物であることがお分かりいただけたらう。

戦前まではごくありふれた植物だった大麻は、GHQによって禁止をされてしまったのである。



被災地の様子

滅びる郷土の名産 大麻

坂井市

ことしはわずか三軒

来年からはタバコ栽培へ

大麻の栽培は、戦後、全国的に禁止された。しかし、坂井市では、戦前からの伝統として、大麻の栽培が行われてきた。ことしは、わずかに三軒の農家が大麻を栽培したが、来年からはタバコ栽培へと転換する予定だ。

大麻の栽培は、戦後、全国的に禁止された。しかし、坂井市では、戦前からの伝統として、大麻の栽培が行われてきた。ことしは、わずかに三軒の農家が大麻を栽培したが、来年からはタバコ栽培へと転換する予定だ。

大麻の栽培は、戦後、全国的に禁止された。しかし、坂井市では、戦前からの伝統として、大麻の栽培が行われてきた。ことしは、わずかに三軒の農家が大麻を栽培したが、来年からはタバコ栽培へと転換する予定だ。

診療室や保育施設

開拓者婦人ホ

開拓者婦人会が、診療室や保育施設を開拓する。これは、地域の福祉向上に貢献する重要な取り組みである。



開拓者婦人会の活動の様子